



学校だより

第213号

学校ホームページ <http://www.obihiro-sb.hokkaido-c.ed.jp>

令和7年(2025年)

3月 24日 月曜日 発行

〒080-2475

帯広市西 25 条南 2 丁目9番地1

TEL 0155(37)2028

FAX 0155(37)3768

令和6年度を振り返って

校長 瘧師 輝幸

4月8日、幼稚部に2名の入学生を迎えて令和6年度がスタートしました。早くも1年が経とうとしています。

今年度より新たに校訓を「かしこく ゆたかに たくましく」とし、様々な教育活動を進めて参りました。年度の途中、体調不良により一時期入院せざるを得ない子供もいましたが、1年間を通して大きな事故や怪我がなく、全員が健やかに成長してくれたことにほっとしています。

例年の行事である運動会や学習発表会では、先生方が作った手作りの道具やICTを活用した映像や音楽などで子供たちは意欲が湧き上がり、日頃の学習の成果を精一杯に発揮する姿が見られました。その様子を見ていただいた地域の方々からは沢山の賞賛の言葉をいただいたほかに、教育相談で本校を利用しているご家庭から「盲学校で学ばせたい」と入学を決断するきっかけになったと聞いております。

4名が在籍している寄宿舎では、季節のイベントごとにきれいな装飾を施し、子供たちだけでなく保護者や職員も大勢で楽しむことが出来たり、余暇の時間を使って運動や遊び、近くのコンビニエンスストアまで買い物へ出かけたりと、生活経験の拡大を図ることが出来ました。

地域とのつながりにおいては、町内会の方々が参加した「1日防災教室」や支援団体との協力の下、今年度も「目のことなんでも体験・相談会」を開催することが出来ました。また、帯広盲聾教育後援会の協力を得て、今年度も帯広自衛隊第5音楽隊による音楽演奏会を実施することが出来ました。聾学校との合同開催ではありますが、一緒に歌ったり踊ったりする場面もあり、音楽を通して両校や地域とのつながりを感じることが出来ました。

残念なこととしては、平成11年から長きにわたって交流をしてきた「鹿追町立上幌内小学校」が今年度末をもって閉校することとなり、2月の交流を最後に終了することとなりました。小学部を中心に交流してきましたが、コロナ禍におけるオンラインを使った交流を機に幼稚部や中学部を含めた全校での交流をさせていただきました。両校の子供たちにとって障がいの有無や校種は違えども、年間2回の交流は互いを認め合い、分け隔てなくともに学ぶ姿がありました。2月8日に行われた閉校式典では、本校に特別表彰として感謝状をいただきました。来年度からは交流先を変更し、また新たな交流の歴史を築いていくことになります。

今年度1年間、子供たちが元気に成長してくれたことが学校として何よりの成果となり、保護者の「育てがい」、職員の「働きがい」に繋がったと思います。支えてくださった方々に感謝するとともに、頑張った子供たちに大きな花まるを送りたいと思います。

来年度も元気な帯広盲学校に期待してください。



入学式・始業式のご案内



令和7年4月8日（火）

13:15～	幼児・児童・生徒登校
13:30～	着任式
13:35～	始業式
13:45～14:10	入学式
14:10～14:30	新入生在校生学級写真撮影
14:30～14:45	全体懇談（学校からの説明）
14:45～15:15	学級懇談、下校
15:15～15:30	寄宿舎懇談

転出・退職する職員の紹介

校長 瘡師 輝幸

2度目の帯広盲学校での勤務で、はや2年が経ちました。
元気に登校してくる子供たちの様子や一生懸命学習や遊んでいる姿を見ていると、私自身の活力となっていました。

PTAや後援会などの地域の方々からのご支援やご協力をいただきながら活発な教育活動を展開できたことに感謝しております。

転任地は、函館盲学校になります。交流や文体連などで成長した帯盲の子供たちと会えることを楽しみにしたいと思います。お世話になりました。



教諭 及川 靖世

この度、札幌視覚支援学校に異動になりました。

帯広での11年間は、長いようで、過ぎてしまえばあっという間でした。

楽しいこと、辛いことなど、様々な思い出が蘇ってきます。感慨深いものがあります。

今となっては、貴重な体験をしたと思っています。一番の思い出は、食育放送のテーマソングとして「給食もりもり」ができ、みんなで歌ったことです。

札幌視覚支援学校でも、健康に気をつけながら、仕事に励んでいきたいと思っています。

11年間、本当にお世話になりました。



教 諭 間 船 通 孝

帯広盲学校に異動した年、長男は小学校入学、二男は保育園の入園でした。早いもので、今や高校生と中学生です。ブラックアウトがあり、コロナ禍があり、大雨の洪水や大雪もありました。災害などが心に残る10年間でしたが、自分にとっては、通常教育、知的障がい教育、聾教育について盲教育にも触れることができ、大きく経験の幅を広げることができました。

この3月で、前任校の別海町立中西別小学校が閉校します。初任校の釧路聾学校はすでに閉校しています。帯広盲学校は、なんとか存続していったほしいものです。



専門寄宿舎指導員 酒 井 富 美 子

20歳の時から41年間、寄宿舎指導員として務めてきました。なんとも長い期間ではありますが、今年度に入ってから、時間の流れがとても早く感じられ、実はまだ定年退職という実感がわかないでいます。これまで、たくさん子ども達との出会いがあり、共に笑い喜び、そして何よりも子ども達から多くを学び、成長を見守ることができたことを嬉しく思っています。これからも盲学校のみなさんが元気いっぱい自分らしく成長していくことを心から応援していきたいと思っています。素敵な出会いをありがとうございました。



専門寄宿舎指導員 上 野 直 美

このたび、定年退職いたします、上野直美です。

寄宿舎指導員として、41年間勤めさせていただきました。ふりかえると、沢山の思い出が、よみがえります。41年間続けてこられたのも、かわいい子どもたちに囲まれて、日々過ごせたことが、何よりも励みになったからだと思います。就職した頃は、右も左もわからず、ただ、若さと元気だけで乗り越えてきました。毎日、先輩の職員や子どもたちに教えられることばかりでした。最近では、日々の疲れがとれず、すっかり年を感じるようになってしまいました。

帯広盲学校に戻ってきてからは、毎日が楽しくて、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じています。今思えばもっといろいろなことができたのではないかと、もっと子どもたちと楽しいことができたのではないかと考えてしまいます。子どもたちの笑顔や、皆さんにお世話になったことを、ずっと忘れません。長い間勤めることができたのも、保護者の皆様や職員の皆様に支えていただいたからこそと感謝しております。

どうぞお体を大切に、明るく健康で過ごせますように、心より願っております。それでは皆さん、いつかまた会いましょう。



専門寄宿舍指導員 塚本 康絵

新卒で7年、今回7年と合計14年お世話になりました。

いくつになっても失敗との格闘。いつでもどこでも日々勉強だなと感じさせられました。

頑張ってきたのも舎生の元気いっぱいの笑顔(*^▽^*)と、毎日毎日の変化、成長に驚かされ、癒やされてきたおかげです。

次は中札内高等養護学校と、環境が大きく変わりますが、また違った大変さや楽しみも味わいたいと思います。ありがとうございました。



事務主任 丹野 明美

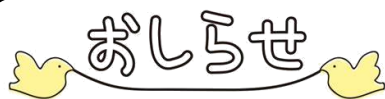
今年度をもちまして定年退職となりました。

定年まで勤務出来るか葛藤の日々でしたが、この日を迎えられる事に感謝いたします。

幼児・児童・生徒の皆さん、笑顔で挨拶をしてくれてありがとう。ほっこり嬉しく思う瞬間でした。また、これまで自分に関わってくださった職員の皆さん感謝の気持ちで一杯です。

「その一言」の中に、はげまされ・がっかりし等ありますが、わずかな一言の大切さや力を感じさせてもらえる職場でした。自分の想定以上に寂しさも感じております。

最後になりますが、これまで同様に皆さんが元気に仲良く学校生活を過ごせますように応援しています。充実した日々を、ありがとうございました。



令和6年度の本校におけるいじめの認知件数は0件でした。

これからも、いじめを生まない安全・安心な学校環境づくりと「いじめ見逃しゼロ」を徹底し、幼児児童生徒の望ましい人間関係を構築する能力の育成に努めてまいります。

いじめに関する心配事がございましたら、些細なことでも学校または別紙の関係機関へご相談ください。

なお、いじめ防止基本方針（R5改訂）は本校ホームページをご覧ください。

